国語　神戸大学　（前期）１／３

一

問一

他人に内面性を認めるのと並行的に自己の内面に心を定位し、否定的な情動を他人に帰属させることで、すべてが自然現象だった世界に暴力が立ち現れるに至ったということ。（七十九字）

問二

人間は、原初的な暴力によって害を被ることで初めて、そうした暴力をめぐって真剣な思考を凝らし、自分とは異質なはかり知れない内面を持つ他者を発見するということ。（七十八字）

問三

ほどよく安定を保った通常状態の例外として際立つ暴力の破壊力は、日常の秩序に反するものではなく、安定や秩序を支える潜在的な力の絡まりが顕在化したものだということ。（八十字）

問四

暴力は、あるがままの自然な世界に自他の内面性を発現させる契機であるとともに、ほどよく安定した日常の秩序を成立させる潜在的な力のネットワークと連続性を持つものでもあり、その意味で例外的な事態や単なる技術的な克服の対象ではなく、その現れの多様性や存在の根深さを通じて、人間的世界の価値や可能性と固く結びついているということ。（百六十字）

問五

(a)　正邪　(b)　回帰　(c)　唐突　(d)　基調　(e)　侮辱

© 河合塾　2024 年

二

問一　(a)　ホ　(b)　イ　(c)　ハ

問二

(ア)　渡り切らずにいると

(イ)　工夫して

(ウ)　はっきりしなくて気がかりなので

(エ)　中途半端であって

問三

七夕の夜に、彦星が天の河の深さに渡りかねている間に夜が明けてしまい、織姫に逢わずに仕方なく帰ってしまうということがあるだろうか、いや、あるはずがない

問四

年に一度の逢瀬であるうえ、天の河は深いはずがなく、かささぎや紅葉の橋、舟によっても渡れるはずだから。（五〇字）

問五

古歌は事実そのままでなく比喩や誇張を用いて詠むことがあるので、冒頭歌でも、短く感じられる七夕の逢瀬を「逢っていない」と表現したのだと、筆者は理解したということ。（八〇字）

問六　ロ

© 河合塾　2024 年

三

問一

① すでに
② ひととなりを
③ けだし

問二

（ア）もってますべし（と）。

（イ）いまだそのこころざしをえざるなり（と）。

問三

周の文王でなければ、いったい誰がこのような琴の楽曲を作ることができましょうか。

問四

孔子が琴の楽曲は偉大な人物の作で、それは周の文王だと判断したことが、師襄子の師と同じであったから。（四十九字）

© 河合塾　2024 年